

- 1 日時 令和元年10月17日(木)第5校時 武道場
 2 単元 武道(剣道)
 3 単元について

(1) 武道は、武技、武術などから発生した我が国固有の文化であり、相手の動きに応じて、基本動作や基本となる技を身に付け、相手を攻撃したり相手の技を防御したりすることによって、勝敗を競い合い互いに高め合う楽しさや喜びを味わうことのできる運動である。

本単元で取り扱う剣道は、竹刀を使って、基本動作や基本となる技を用いて、互いに有効打突をめざして、相手と攻防しながら勝敗を競い合う運動である。主な学習内容としては、礼儀作法や体さばき、構え、基本打突の仕方などの基本動作や、しかけ技や応じ技などの対人的技能、ルールやマナー、審判の仕方などの試合の運営の仕方がある。それらを学習していくことは、「礼に始まり礼に終わる」といわれるように、礼法を重視していること、礼を重んじ、その形式にしたがうことは、自分を律するとともに相手を尊重する態度も育成できるものと考えている。したがって、本単元を学習させることは、中学生期の生徒をよりよい方向へ導く手段として、大変意義深いものとして捉えている。

(2) 本学級の生徒は、男子17名、女子15名、計32名である。明るく素直で、男女間の仲も良く、与えられた課題に対して意欲的に取り組む生徒が多い。運動が苦手な生徒もいるが、お互いに励まし合いながら学習を進める雰囲気もある。本学年は、普段は男女別習で学習を行っているが、今回の剣道を含めて数種目で男女共習を行うことにしている。1年次の武道としては、男子が柔道、女子がなぎなたを学習しており、剣道は初めての学習である。事前のアンケート結果より、「男女共習で学習すること」に対しては82%の者が肯定的な回答をした。理由として「男子の動きが参考になる」「小学校のころにしていたので懐かしい」といった意見であった。「剣道のイメージは?」という質問に対して、「礼儀正しそう」「カッコいい」と答えた生徒がいる一方で、「痛そう」「きつそう」「堅いイメージがある」と答えた生徒も多かった。「剣道への興味の有無」については47%の者が「興味がない」とマイナスな回答をした。つまり、剣道にマイナスなイメージをもっている生徒が少なくないことから、剣道の楽しさを伝え、興味・関心を高めながら、マイナスなイメージを払拭するような手だての工夫が必要だと考えられる。

(3) 深い学びをめざした全員参加の授業づくりのために、次の視点で改善を図りたい。

<課題設定> ★教具を工夫したり、ICT機器を活用したりしながら、どのように竹刀を操作したら良いかを、主体的・共働的に学べるような学習課題を設定する。

<対話> 自分と異なる多様な意見を知ること、自分の考えの参考にし、自分の意見を深めたり、広げたりさせる。

共生の観点を考慮し、男女比率、体力差が均等になるようにグループ編成をすることで、多様な考え方に触れさせる。

<振り返り> ☆自分の意見と他の意見を比較する場面を設けることで思考を深めることにつなげながら、次時の課題への探求につなげる。

4 単元の見込み

- (1) 剣道に積極的に取り組むとともに、相手を尊重し、伝統的な行動の仕方を守りながら主体的に活動することができる。(関心・意欲・態度)
 (2) 技を身に付けるための運動の行い方のコツを見つけ、なかまと共有することができる。(思考・判断)
 (3) 基本動作を理解し、正しく行うことができる。(技能)
 (4) 武道の特性や成り立ち、伝統的な考え方や技の名称を理解することができる。(知識・理解)

5 学習指導計画(全7時間)

期	学習内容	時	めざす資質・能力
1	・オリエンテーション ・防具つけ(道着、袴、小手)	1	・礼法や安全に対する心得、防具のつけ方が理解できている。(知識・理解)
2	・竹刀の取り扱い、基本動作の練習(礼法、構え、体さばき、素振り)	2	・剣道の特性に関心をもち、基本的な練習に進んで取り組むことができる。(関心・意欲・態度)
3	・基本動作の習得(面打ちを極める)	3(本時1/3)	・課題解決の方法を理解し、グループで話し合いながら工夫して練習できる。(思考・判断)
4	・実技テスト、まとめ	1	・基本動作、正しい面の打ち方を身に付けることができる。(技能)

6 本時の学習指導

(1) 目標

- ・ 面打ちの基本動作（竹刀を用いての打ち方）を正しく理解することができる。
- ・ 竹刀操作のコツを見つけるために、なかまと共働的に学習に取り組むことができる。

(2) 準備物

筆記用具、体育ノート、実技本、竹刀32本、バレーボール8球、iPad8台

(3) 学習指導過程（★今回の授業で最も重視するポイント、☆学びの再構築を促すための工夫）

場面	形態	学習内容及び活動	予想される生徒の反応	指導上の留意点	
導入	全	1 集合・挨拶をする。	・ 大きい声で挨拶する。	・ 礼法に気をつけながら大きな声で挨拶させる。 ・ 欠席、見学、体調不良、忘れ物等の確認をする。	
	全	2 本時の学習課題を確認する。	・ 学習課題を知る。	・ 竹刀操作をスムーズにする活動をすることを伝える。	
学習課題：スムーズに竹刀を操作するためには？					
展開	4	3 面打ちを練習する。 (1) 模範演技を見て、正しい面打ちのポイントを知る。	・ 模範演技を見て、正しい面打ちをするためのポイントを知る。	・ 中段の構えから、右足を大きく踏み込み、打突部位を意識しながら力まずに竹刀を真っ直ぐ振るように指導する。	
	4	(2) バレーボールを竹刀で打ちドリブルやパスをする。	・ どのように打てば上手くボールをつけるか、また、相手に上手くボールが返るか考えながら打つ。	・ 上手くボールをドリブルしたり、相手がいる方にボールを返したりするためには、どのように打てばよいかを考えさせる。 ・ 気づいたことや感じたことは、どんどん友だちに伝えるよう助言する。	
	発問：上手くボールをコントロールするために、どのように竹刀を振ればいだろうか。				
	4	(3) ボールをうまくコントロールするコツをグループで話し合う。	・ 上手くできた人が、できなかった人に留意点を伝える。	★ 上手くボールをコントロールする方法を、竹刀の振りかぶり方や振り方、打突部位や力の入れ方などに着目させて、考えさせる。	
	4	(4) 再びバレーボールを打つ。	・ コツを理解して、実践しようとする。	・ 話し合い活動において出たことを意識して活動するように指導する。	
4	4 打ち込み台を使って面打ちをする。	・ ボールを打っていた要領で、打ち込み台を打つ。	・ 話し合いで学んだことを生かして試合のつもりで面打ちをさせ、その姿をiPadで撮影させる。		
振り返り	4	5 本時の評価と次時の課題を確認する。	・ 学習カードに本時に学んだことを振り返らせながら、動作分析から分かったことや次時の課題を書く。	☆ iPadで動作分析をさせたり、本時に学んだコツを振り返らせたりすることで、刃筋正しく面を打つための次時の課題を考えさせる。 ・ 大きな発声や強い踏込、残心など一本をとるための条件も意識させる。	
	全	6 挨拶をする。	・ 礼法に基づいた挨拶をする。	・ けががないか確認し、礼法を意識した挨拶をさせる。	

(4) 評価

- ・ 竹刀の打突部位を意識し、正しく竹刀を操作することができたか。
- ・ なかまと意見を共有し、自分の意見と比較して課題解決のために共働的に学習に取り組むことができたか。